

第2 【事業の状況】

1 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当第1四半期連結会計期間における生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	生産高(千円)
乗換案内事業	538,925
マルチメディア事業	17,491
その他	53,096
合計	609,513

- (注) 1 金額は、販売価格によっております。
2 金額には、消費税等は含まれておりません。
3 セグメント間取引については、相殺消去しております。

(2) 受注実績

当第1四半期連結会計期間における受注実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	受注高(千円)	受注残高(千円)
乗換案内事業	5,615	59,881
マルチメディア事業	—	—
その他	97,770	137,385
合計	103,385	197,267

- (注) 1 金額には、消費税等は含まれておりません。
2 セグメント間取引については、相殺消去しております。
3 受託開発以外の製品については見込生産を行っております。

(3) 販売実績

当第1四半期連結会計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	販売高(千円)
乗換案内事業	803,332
マルチメディア事業	15,066
その他	62,701
合計	881,100

- (注) 1 金額には、消費税等は含まれおりません。
2 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 【経営上重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上重要な契約等は行われておりません。

3 【財政状態及び経営成績の分析】

(1) 経営成績の分析

当第1四半期連結会計期間（平成20年10月1日～平成20年12月31日）におけるわが国経済は、世界的な金融不安や円高等の影響が実体経済に波及し、設備投資や企業収益は減少し、輸出や生産も減少するなど、景気悪化が顕著となっております。

情報通信業界におきましても、企業のソフトウェア投資はおおむね横ばいで推移しており、情報サービス業の売上高は前年同期（平成19年10月1日～平成19年12月31日）と比べ減少傾向にあるなど、今後のソフトウェア・情報サービス需要についても、先行きの不透明感が強まる状況となっております。このような中、ブロードバンド化を含め、社会のインターネット環境が普及、成熟してまいりました。携帯電話につきましても、当第1四半期連結会計期間末（平成20年12月末）にはインターネット接続の契約数が9,000万件を超える等、インターネット端末として広く浸透しております。

当社グループにおきましても、携帯電話向けに提供いたしております「乗換案内NEXT」及び無料版「乗換案内」の検索回数は平成20年12月には月間約1億2,000万回に達する等、インターネットでの更なる事業展開の基盤を確立してまいりました。

このような環境の中で、当第1四半期連結会計期間における当社グループの売上高は881,100千円（前年同期比18.7%増）、営業利益は154,123千円（前年同期比5.6%増）、経常利益は152,083千円（前年同期比4.3%増）、四半期純利益は85,534千円（前年同期比5.1%増）という経営成績となりました。

売上高につきましては、主として、乗換案内事業セグメントにおける売上高が803,434千円（前年同期比15.1%増）と順調に推移したことに加え、その他セグメントにおける売上高が70,160千円（前年同期比112.6%増）と大きく増加したことにより、前年同期と比べ増加いたしました。また、営業利益につきましては、乗換案内事業セグメントにおける営業利益は前年同期と比べやや減少しておりますが、前年同期に営業損失が発生していたその他セグメントにおいて営業利益を計上したため、全体としては前年同期と比べやや増加いたしました。これにより経常利益、四半期純利益につきましても、前年同期と比べ増加いたしております。

事業の種類別セグメントの業績は、次のとおりであります。

(乗換案内事業)

乗換案内事業は全体として、売上高は順調に推移いたしましたが、営業利益については前年同期と比較してやや減少いたしました。

携帯電話向けの事業につきましては、携帯電話向け有料サービスである「乗換案内NEXT」は順調に会員数が増加しており、前年同期末（平成19年12月末）には約51.6万人でしたが、当第1四半期連結会計期間末には約57.9万人となっております。その結果、売上高も前年同期と比べ大きく増加しております。また、広告につきましては、携帯電話向け無料版「乗換案内」へのアクセスが増加していることや新たに地域検索連動型広告を積極的に展開したこと等により、クライアントの獲得が順調に進み、売上高は前年同期と比べ増加しております。

「乗換案内」のパソコン向け製品につきましては、前年同期と比べ売上高が減少いたしております。これは主に、顧客との直接契約によるバージョンアップの販売及び店頭販売パッケージの売上が減少しているためであります。

「乗換案内インターネット3PLUS」等の法人向け製品の売上高につきましては、前年同期と比べ増加しております。これは主に、近年開始したASPサービスの「乗換案内.NET XML Edition」の売上増加によるものであります。

旅行関連事業に関しましては、パソコン向けインターネット版「乗換案内」、並びに携帯電話向け「乗換案内NEXT」及び無料版「乗換案内」の利用者等に対して、旅行商品の販売を実施しており、売

上高は前年同期と比べ大きく増加しております。

しかしながら、前年同期と比較して、情報使用料や広告宣伝費等が増加した影響により営業費用が増加しております。

以上の結果、売上高803,434千円（前年同期比15.1%増）、営業利益247,484千円（前年同期比5.6%減）となりました。

（マルチメディア事業）

マルチメディア事業では、従来から携帯電話向けゲーム「ハムスター俱楽部」等の提供を行っております。前期からは、ニンテンドーDS向けに家庭用ゲームソフトの発売を行っております。その他に、新しいコンセプトの映像コンテンツも提供しております。

また、総合オピニオン誌『表現者』の発行元となり、出版事業も展開しております。新たに、当第1四半期連結会計期間において書籍の発売を開始し、『幸せがやってくる魔法のかたづけ術』、『首桃果の秘密』の2タイトルを刊行しております。

しかしながら、当第1四半期連結会計期間においては新たな事業展開を含め、全体として売上高は増加したもの、利益の獲得には至っておりません。

以上の結果、売上高15,066千円（前年同期比7.4%増）、営業損失40,956千円（前年同期は39,804千円の損失）となりました。

（その他）

受託ソフトウェア開発及び情報関連機器リース等につきましては、ソフトウェア開発の受注及び売上が増加している影響で、前年同期と比べた売上高は大きく増加しており、営業利益の確保に至っております。

以上の結果、売上高70,160千円（前年同期比112.6%増）、営業利益7,429千円（前年同期は16,410千円の損失）となりました。

なお、上記の事業の種類別セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を相殺しておりません。また、営業利益は、配賦不能営業費用及び内部取引による営業費用の控除前の数値であり、合計は連結営業利益と一致しておりません。

（注） 上記における前年同期比増減率（前年同期の金額）は、業績説明上の参考情報として記載しており、独立監査人による四半期レビューを受けておりません。

（2）財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における財政状態は、前連結会計年度末（平成20年9月末）と比較しますと、資産は64,598千円減の2,936,143千円、負債は99,225千円減の506,609千円、純資産は34,626千円増の2,429,534千円となりました。

資産は、流動資産につきましては、50,877千円減の2,424,246千円となりました。これは、現金及び預金が12,116千円減の1,681,297千円、受取手形及び売掛金が30,886千円減の622,506千円、繰延税金資産が19,516千円減の52,370千円となったこと等の影響が、仕掛品が19,988千円増の24,217千円となったこと等の影響を上回ったことによるものであります。受取手形及び売掛金が減少しているのは、主に季節変動によるものであります。繰延税金資産が減少しているのは、主に賞与引当金や未払事業税の減少によるものであります。仕掛品が増加しているのは、主にソフトウェア開発の受注増加に伴う開発中案件の増加によるものであります。

固定資産につきましては、13,720千円減の511,896千円となりました。これは、有形固定資産が14,559千円減の192,602千円、無形固定資産が109千円増の85,515千円、及び投資その他の資産が729千円増の233,778千円となったことによるものであります。有形固定資産が減少しているのは、主に償却が進んでいることによるものであります。無形固定資産及び投資その他の資産につきましては、大きな変動はありません。

負債は、流動負債につきましては、96,726千円減の483,265千円となりました。これは、賞与引当金が27,817千円減の31,847千円、未払法人税等が91,638千円減の41,393千円となったこと等の影響が、未払費用が17,016千円増の64,170千円となったこと等の影響を上回ったことによるものであります。賞与引当金が減少しているのは、賞与の支払いによるものであります。未払法人税等が減少しているのは、法人税等の支払いによるものであります。未払費用の増加は、主に費用が前期と比較して増加傾向にあることによるものであります。

固定負債につきましては、2,499千円減の23,344千円となりました。これは、長期借入金の返済によるものであります。

純資産は、株主資本につきましては、33,311千円増の2,391,923千円となりました。これは、四半期純利益85,534千円が、剰余金の配当41,829千円を上回り、利益剰余金が43,705千円増の1,854,057千円となった影響が、自己株式を市場買付により取得したことにより、自己株式が10,393千円増の23,883千円となった影響を上回ったことによるものであります。

少数株主持分につきましては、1,315千円増の37,610千円となりました。これは主に、少数株主利益の発生に伴うものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間における連結ベースの現金および現金同等物は、前連結会計年度末と比べ15,416千円減の1,360,418千円となりました。

当第1四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とその要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは55,323千円の収入となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益が149,387千円、減価償却費が26,390千円、売上債権の減少額が30,886千円となったこと等の合計が、賞与引当金の増加額がマイナス27,817千円、法人税等の支払額が130,688千円となったこと等の合計を上回ったことによるものであります。売上債権の減少額の発生原因は、主に季節変動であります。賞与引当金の増加額がマイナスとなったのは、賞与の支払いによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは18,719千円の支出となりました。これは主に、定期預金の預入による支出が13,300千円、無形固定資産の取得による支出が11,157千円となったこと等の合計が、定期預金の払戻による収入10,000千円を上回ったことによるものであります。定期預金の払戻による収入及び定期預金の預入による支出のうち、10,000千円は満期による払戻及び再預入によるものであります。無形固定資産の取得による支出の内訳は、主に自社開発の市場販売目的のソフトウェアの取得によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは50,178千円の支出となりました。これは、配当金の支払額が37,286千円、自己株式の取得による支出が10,393千円となったこと等によるものであります。配当金の支払額については、1株当たり配当金を平成20年9月期には8円としたこと等によるものであります。自己株式の取得による支出については、当第1四半期連結会計期間において市場買付により自己株式を取得したことにより発生しております。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結会計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第1四半期連結会計期間の研究開発費の総額は9,856千円であります。

事業の種類別セグメントの研究開発活動を示すと、乗換案内事業においては、主に、iPhone・iPod touch向けのアプリケーションについて研究開発を行い、当第1四半期連結会計期間において提供を開始しております。マルチメディア事業においては、主に家庭用ゲームソフトについて開発を行ってまいりました。